映像から現いた日向

齋藤翔平

自分の目で見た日向と映像を通して観た日向。比較した時に感じたものとは何か。

Profile：
齋藤翔平(さいとう・しょうへい)｜山形県川西町｜Praxis｜
高校時代に演劇部で地域と関わることが多く、大学2年の初めに「何かやらなくては」という想いもあり、先生の勧めで2017年度の長期学外学修というプログラムに参加。今年は地域活動をPraxisのメンバーとして行っている。大学生活の中での経験から改めて自分を見つめ直し、進路など諸々迷走中。

「日向地区をアピールするために動画とか作ったらどうっすか？」

なぜ映像から覗いているのか、疑問に思う方も少なからずいらっしゃるだろう。理由は単純。日向地区PRの為、ビデオカメラで動画撮影をして編集しているから。

「アナログ人間の俺がパソコンを使って編集？操作方法も怪しいこの俺が？」

そう思っていたものの、使っているソフトが優秀で、こんな自分でもそこそこまともな動画が作れるのだから、現代の技術には驚かされる。現代の技術、万歳。

そもそもなぜ私が動画制作を担当する事になったのか。時間は去年の公翔祭の頃に遡る。長期学外学修プログラムの繋がりで日向地区PRの為のブースを先輩方と出すことになった。具体的な企画を決めていく中、調子づいた私はこう言った。

「日向地区をアピールする為に動画とか作ったらどうっすか？」

これが全ての始まりだ。

元々、先輩方が長期学外学修プログラムの成果として地域内外の方を対象に地域の魅力を再発見する「資源発掘ツアー」（ミステリーツアーと呼んでいる）を実施したと聞いていた。それをきっかけに「自分だったら地域の人を巻き込んだ企画で何をするだろうか？」と考えて、密かに思いついていたのがこのアイディアだった。昔から映画に関心があり、ショートフィルム的なものを作ってみてはどうかと考えていた。長期学外学修中は実現する事がなかったから、このチャンスは逃すまいと、その時に思ったのかもしれない。

そんなわけで去年はシナリオ作成、カメラワーク、動画に登場するレポーターみたいな役割を一通りこなさせてもらった。大変ではあったが楽しかった。

しかし今年は、編集作業を担当してくださった先輩はいらっしゃらない。やばい。動画をつくることになった。編集どうしよう。やばい。そう思っていたが、それ以降の事は最初に述べた通り。現代の技術のおかげでなんとかなった。以上が動画作成を担うことになった経緯だ。